



沖縄県議会議員

末松 文信

●文教厚生委員会委員長 ●議会運営委員会委員

この度、待望の「**沖縄県立名護高等学校附属桜中学校**」が、来る**令和5年4月7日に開校**する運びとなりました。また、懸案でありました北部地域の医療提供施設が沖縄県立北部病院と北部地区医師会病院とを統合し、新たな「**沖縄県北部公立北部医療センター**」として**令和10年開院**を目指して進められています。これらは、名護市をはじめとする北部地域の定住条件の整備として公約に掲げ、その実現に取り組んでまいりました。

令和4年2月定例会一般質問

1 知事の政治姿勢について

(1) 復帰50周年の節目にあたって

ア、次期沖縄振興計画の新たな視点について

万国津梁の邦沖縄は南北約400km、東西約1,000kmの広大な海洋を持っている。その特殊性を生かした計画について伺う。

イ、離島北部地域の条件不利性解消に向けた具体的な取り組みについて伺う。

(2) 北部医療センターの取組状況について

(3) 県立名護高等学校への中高一貫校設置に向けた取り組み状況について

その他、「やんばるの森・いのちの水」、鉄軌道の導入、伊平屋空港や伊是名・伊平屋架橋の取り組み状況など。

令和4年6月定例会一般質問

1 知事の政治姿勢について

(1) 米軍基地の整理縮小について

ア、普天間飛行場代替施設建設埋立工事の進捗状況について

(2) 令和3年度一括交付金、約10億円の交付金請求漏れについて

ア、請求漏れの10億円を過年度支出として充当できることについて

2 北部・離島振興について

(1) 北部医療センターの取り組み状況について

(2) 伊平屋及び伊是名村の診療所並びに医師看護師住宅移転建て替

(3) 名護高等学校附属桜中学校の開校準備状況について

(4) 名護商工高校への新たな設備系学科の設置について
その他、名護食肉センターの移転整備計画の進捗状況、羽地漁業組合から軽石の早期撤去及び大量流入被害に対する支援など。

令和4年12月定例会一般質問

1 知事の政治姿勢について

(1) 普天間飛行場代替施設建設について

ア、去る12月1日県の主張が退けられた判決について所見を伺う。

イ、辺野古関連の裁判の件数と結果及び裁判費用について伺う。

公室長答弁：訴訟12件、内4件取り下げ、5件敗訴、3件係争中。裁判費用は、約1億86万円。

その他、名護・那覇間の鉄軌道導入、北部医療センター整備スケジュール、伊平屋・伊是名村診療所及び医師看護師住宅の移転整備、名護高等学校附属桜中学校の応募状況**(定員40名に対し志願129人、3.23倍)**。

名護商工高校への設備系学科の設置、燃料や飼料の高騰に対する農家への支援名護食肉センター整備、羽地GPセンターの統合計画、工業用水の供給体制など。

令和5年2月定例会一般質問

1 知事の政治姿勢について

(1) 米軍基地問題について

ア、在日米軍基地の70.3%が集中し応分の負担には、程遠いとしているが、応分の負担とは何パーセントか、県の具体案はあるのか伺う。

イ、基地の負担軽減は、米軍と自衛隊を併せて検討とあるが、共同使用を含むとの考えか、

(2) 北部医療センター住民説明会における課題と対応策について

(3) 県立病院の管理運営について、八重山病院の院長他スタッフの辞任騒動について、他の県立病院はどうか、

その他、伊平屋・伊是名村診療所及び医師看護師住宅移転整備、桜中学校入学状況**(全員北部地域)**。

名護商工高校設備学科設置、鉄軌道導入、名護食肉センター、GPセンター、伊平屋空港・伊是名伊平屋架橋など。

沖縄自民党会派視察研修(令和4年11月)

普天間飛行場代替施設建設埋め立て工事の進捗状況と久辺3区との意見交換及び金武町行政視察

令和4年11月4日(金)、会派19名全員+2名で辺野古埋め立て現場において、工事の進捗状況を視察した。その後、久辺3区の区長・行政委員等との意見交換をおこなった。工事は予想以上に進んでおり最早止められない状況であった。意見交換の中で辺野古移設は条件付きで容認した。条件整備を着実に進めて欲しい旨、要望があった。



久辺3区・意見交換



キャンプシュワブ



久辺3区・意見交換参加者



金武町・ターウムパークゴルフ場視察



金武町・KNサンライズビーチ視察

県議会文教厚生委員会視察研修(兵庫県)令和5年1月



公益財団法人神戸医療産業都市推進機構にて

県議会議会運営委員会視察研修(京都府・大阪府)令和5年1月



京都府議会



県議会一般質問

令和5年4月7日に
併設型の中高一貫校が開校します。

沖縄県立名護高等学校 附属桜中学校・開校

■開校に至る経緯

北部地域の医療は、主に県立北部病院や北部地区医師会病院が担っていますが、両病院とも医師や看護師を確保するのが難しい状況にあり休診することもありました。そのような中、北部の医療に携わる先生から、末松(当時名護市助役)さん、若い医師が名護に留まらない理由は分かっていますかと聞かれ、言いえ何故ですかと尋ねたところ先生は、若い先生方は希望を持って赴任して来ますが、結婚して子供ができると子どもの教育のために、奥さんが子どもと一緒に那覇に移り、次に医師本人が家族のもとへ移る。通いが大変だから仕事も移る。

このように定住できないのは子弟の教育環境に起因しているとの指摘があり、進学校の整備が急務であるとの提案がありました。その後、進学校の誘致にも取り組んでまいりましたが実現できませんでした。幸いに県議会議員として取り組む機会を得ましたので県教育庁に**県議会一般質問**で繰り返し要請したところ10数年経ってやっと中高一貫教育校として「**沖縄県立名護高等学校附属桜中学校**」が開校する運びとなりました。

いかなる変化にも主体的に対応し
協働で未来の道を拓く人材へ



名護高校フロンティア科に進学し、
中高6年間継続して大学進学を目指します！

北部医療圏を守る、やんばるの丘に立つ新病院 「公立沖縄北部医療センター」令和10年開院目指す!



イメージ図

■整備の経緯

平成24年(2012)、北部地区医師会をはじめ県立北部病院、中部病院および琉大病院の先生方が北部地域の医療は、医師不足や看護師不足で診療が休止するなど、危機的状況にある。また、北部地域から中南部地域への患者の流出が多く、県立病院の利用者が30%以下になると閉院に追い込まれる可能性が指摘された。そこで、県立北部病院と北部地区医師会病院を統合することによって診療科目の一元化や医師・看護師等の確保など、合理性が図られるとして北部地区医師会より提案があった。

その提案を受け、北部12市町村が一体となって統合計画を確認し促進に向けて、**平成29年3月「北部住民大会」**を開催し、大会決議に**112,277筆の署名**を添え県知事及び県議会議長に北部基幹病院の早期整備に関する要請を行った。

沖縄県と北部12市町村及び北部地区医師会が協議を重ね紆余曲折はありましたが、**令和2年2月県議会本会議において「北部基幹病院の早期整備に関する決議」(案)を提案し全会一致で採択した。**これを契機に沖縄県、北部12市町村及び北部地区医師会が統合計画に関する合意書が締結され、基本構想をはじめ基本計画、そして実施計画を策定し、建設場所も農業大学校の跡地に決定し建設に向けて住民説明会を開催するなど、令和10年の開院に向けた取り組みを進めている。

■周辺整備

医療センターの整備に伴い周辺住民への配慮も忘れてはなりません。センターを核とした交通網の整備や都市機能の整備など、新たな街づくりによって生活環境も向上する。



北部基幹病院の早期整備に関する決議(案)を提案



早期整備促進北部住民大会